

## コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト助成金制度

## 2017年度申請書

		受付番号	3			
ふりがな	おかだ てつろう		所属部局・職	福祉学科・助教		
代表者	岡田 哲郎					
プロジェクト名	(副題も含め40字以内) 高島再発見！プロジェクトー「高島プロジェクト」の再活性化へ向けてー					
期間	2017年度					
経費	100千円					
<b>プロジェクト体制</b>						
※エフォート欄には、年間の全仕事を100%とした場合、そのうち本プロジェクトの実施等に必要となる時間配分率を記入してください。						
	氏名	所属研究機関・部局・職	現在の専門	学位	役割分担	エフォート
代表者	岡田 哲郎	福祉学科・助教	地域福祉	修士	研究代表者	10%
協力者	長谷部 里奈	福祉学科・4年生		学士見込	研究協力者	
協力者	高林 透恵	福祉学科・4年生		学士見込	研究協力者	
協力者	伊藤 圭司	福祉学科・4年生		学士見込	研究協力者	
協力者	渡辺 彰浩	福祉学科・4年生		学士見込	研究協力者	
協力者	上田 恭子	コミュニティ政策学科・4年生		学士見込	研究協力者	
プロジェクトのねらい	本プロジェクトは、コミュニティ福祉学部と高島町との間に締結された「高島プロジェクト」の再活性化をねらいとしている。そのための方法として、①「学びのフィールド」としての高島町の価値を確かめるフィールドワーク（研究協力者含め6名での調査）、②プロジェクト創設時の（町・大学双方の）キーパーソンへのヒアリング、③高島町で過去に社会福祉士実習を行った元実習生のコメント収集、以上3点を行い、報告書にまとめる。					
プロジェクト代表者氏名			岡田 哲郎		ページ 1 / 3	

**プロジェクトの目的・必要性・期待される成果**

プロジェクトの目的・必要性、およびプロジェクト実施によってコミュニティ福祉学の発展にどのように貢献するかについて具体的に記入してください。

**① 本プロジェクトの目的・必要性・内容の概要**

前述の通り、本プロジェクトは高島町と本学部との間で締結された「高島プロジェクト」の再活性化を目的としている。2001年度からスタートした「高島プロジェクト」は、締結から現在までのプロセスを知る者が町・大学双方で少なくなってきたこと、また、大学側として同プロジェクトを推進するコミュニティサポートセンターが東日本大震災復興支援プロジェクトに注力するようになったという事情から、このプロジェクトの意義を再認識し、新たな方向性を見出す過渡期にあるといえる。

申請者である岡田は、2004年に本学部で実習インストラクターとして勤務して以来、立場（大学院生→助教）を変えながらも継続して高島町に関わり続けてきた。本「高島再発見！プロジェクト」を実行する体制としては、高島プロジェクト創設時のキーパーソンであった富樫とみよ氏（元・高島町役場福祉課課長、現・屋代地区公民館館長）をコーディネーターに、高島町役場、高島町社会福祉協議会、社会福祉法人松風会、たかはた共生塾等の協力が得られる予定である。

この「高島再発見！プロジェクト」は、申請者の卒業研究ゼミに所属する学生5名の協力を得て、実行する。具体的には、各人の研究テーマである「移住」「排除と共生」「地域コミュニティ」「住民主体」「中間支援組織」の観点から、2泊3日のフィールドワーク・ヒアリング調査を行う。また、高島プロジェクトの創設時からのキーパーソンであった富樫とみよ氏、森本佳樹氏（立教大学名誉教授）に「高島プロジェクト」の意義に関するヒアリングを行い、さらにはかつて高島町で社会福祉士実習（高島プロジェクトの一環として現在まで継続中）を行った元実習生から、過去の実習での学びが現在にどのようにつながっているかのコメントを収集し、それらを報告書にまとめる。

**② 本プロジェクトがコミュニティ福祉学の発展にどのように貢献するのか**

上述のフィールドワーク等を行うことで、今後の「高島プロジェクト」の方向性を検討するための基礎資料が得られるだろう。その上で、大学側の実情も知る申請者が高島プロジェクトの今後について考察し、それも報告書の内容に反映する予定である。

実り豊かな「まほろばの里」として知られる高島町は、ゼミ合宿等の受入れも積極的に行っており、歴史のなかで育まれてきた風土・文化を丸ごと体感できる貴重な「学びのフィールド」である。その魅力と価値を再認識する本プロジェクトは、間接的にはあるが、コミュニティ福祉学の発展に貢献すると思われる。

また、グローバル化や情報化等の社会変動のなかで解体され、同時に希求もされている「地域コミュニティ」が、この地には今日まで脈々と、独特の形で息づいている。高島町そのものと向き合う本プロジェクトは、調査の過程で「地域」という場に基づいたつながり、ないし社会の意味を見つめ直すことにつながるとと思われる。ひいては、コミュニティ福祉学部の「コミュニティ」とは何か、本学部のアイデンティティを問うことにもつながるだろう。そのような意味で、成果物である報告書は、直接的にもコミュニティ福祉学の発展に寄与し得る内容にしたいと考えている。

## プロジェクト費内訳

募集要項の対象費目をご参照のうえ、適宜必要ない費目を削除する、費目ごとの枠を広げるなどして記入してください。

合計金額は様式1の「研究経費 2017年度」と一致します。

費目	金額(千円)	内訳・算出根拠など			
		品名・事項	数量	単価金額(円)	備考
消耗品費					
用品費					
その他図書資料費	10	図書購入費	4	2,500円	
旅費交通費					
電信電話費					
郵便費	5	郵送料	5	1,000円	
印刷費	40	報告書印刷費	100	400円	一部カラー印刷
施設・設備等賃借料	15	レンタカー料金(2泊3日分)	1	15,000円	
その他の委託費					
報酬・手数料					
雑費	30	調査協力者への謝礼品	10	3,000円	
合計	100千円				
		プロジェクト代表者氏名	岡田 哲郎		ページ 3 / 3